

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	18	2	0	3	
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	18	0	0	4	・素人なのでどの人数が適正かわからないので「わからない」にしました。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境 ^I になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化	16	3	0	4	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	17	4	0	2	
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画 ^{II} が作成されているか	23	0	0	0	
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	20	0	0	3	
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	23	0	0	0	
	8 活動プログラム ^{III} が固定化されないよう工夫されているか	21	1	0	1	
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	23	0	0	5	
保護者 への 説明 等	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	21	1	0	1	
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなさ	22	1	0	0	
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング ^{IV} 等)が行われているかのための配慮がなされているか	15	2	2	4	・行われていたとしても、個人的に参加できないものかもしれない
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	18	5	0	0	・共有しての伝達はあるが個々の伝達が不十分な時がある
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	22	1	0	0	・コロナで通所も途絶える状態。、お迎えの際に支援員さんと少し話せるが深く話すのは難しい
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	6	2	5	10	・コロナで通所も途絶える状態。、お迎えの際に支援員さんと少し話せるが深く話すのは難しい
	16 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	21	2	0	0	
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	21	2	0	0	・連絡ノートがあり助かっている
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	20	1	0	1	
19 個人情報取り扱いに十分注意されているか	21	0	0	2		
非常 時 な ど の 対 応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を測定した訓練を実施されているか	13	2	1	7	
	21 非常災害の発生の備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	15	0	0	7	
満足 度	22 子どもは通所を楽しみにしているか	22	1	0	0	
	23 事業所の支援に満足しているか	23	0	0	0	

* I「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をやるのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

* II「児童発達支援」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

* III「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。

* IV「ペアレントトレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。